

新中津川市総合計画

I はじめに

新中津川市総合計画（新総合計画）は、合併協議において、まちづくり計画として合意された「新市建設計画」の各施策をブレークダウンし、優先順位をつけて、地域バランスに配慮し、市長公約に掲げた柱立てに従って策定しました。

- 「新市建設計画」は、「新市建設計画策定委員会」（関係市町村の代表者と学識経験者）で十分な議論が交わされ、説明会の開催や意見聴取により、広く関係市町村住民の意見を反映したものです。
- 「新市建設計画」は、合併後の10年を見据えたまちづくりについて策定されたものですが、どのようにすすめていくか（施策のブレークダウンと優先順位づけ）が盛り込まれていないため、新総合計画においては、施策のすすめ方を示しました。
- 厳しい財政状況の中で、メリハリをつけたまちづくりをすすめるためには、全市的な地域間バランスと各施策間バランスを充分にとり、優先順位をつけて計画的に事業を推進することが重要です。
- 施策の優先順位づけには、旧市町村長公約をできるだけ前期に位置づけ、事業推進計画において中期、後期に仕分けして位置づけます。
- 「新市建設計画」は、市民の願いを受け止めた市長公約と施策要素的に相通ずるため、市長公約に掲げた柱立てに従って、再構築しました。（巻末参考資料参照）

II まちづくりの目標（将来都市像）

- 合併にあたっては、旧町村においては長年守り育ててきた個性が失われるとの不安が、旧中津川市においては一緒になることによって今持っている活力が失われるとの懸念がありました。
- そこで、合併の理念は、「多様性のなかの統一」としました。それぞれの地域がその歴史を踏まえて、自然や文化を磨き、お互いにその個性（多様性）を認め合いながら、それぞれの持てる力を合わせて統一的に行動することによって活力を増し、市民の不安や懸念を解消します。
- この理念は、新市建設計画で掲げた「それぞれの地域の個性を生かしながら、一体感のあるまちづくりを進める」という将来ビジョンとも一致します。
- 新総合計画においても、「多様性のなかの統一」をまちづくりの基本理念として捉え、心から「合併してよかった」と言えるよう、「まちづくりの目標(将来都市像)」をここに掲げ、この目標の実現に向けて取り組んでいきます。（巻末参考資料参照）

統一的に『いきいきとしたふるさと中津川』を造る

- 障害者や高齢者などをみんなで支え合い、次世代を担う子どもたちを健やかに育て、すべての市民が健康で明るく暮らしていける、**安心できる温かい福祉のまち**
- 市民の暮らしを支える道路、公園、情報通信ネットワークや下水道などの生活基盤が整い、火災、事故、地震や風水害などの様々な危険から市民を守るシステムが充実した、**安全で便利な暮らしのできるまち**
- 名古屋都市圏から一時間圏にある地理的な優位性と優れた地域資源の利活用により、基幹産業である製造業、地場産業の木材関連業、石材業や周辺部の農業、林業、畜産業が活性化し、中心市街地の再整備や広域観光の振興により多くの人でにぎわうような、**産業が活発で働く場の充実したまち**

優れた地域資源は、これからの市民の生活と将来への持続的発展を支える力強い原動力としての貴重な財産です。

- 中心部における勢いの強い電気機械器具、輸送用機械器具をはじめとする工業、周辺部の地域特性を活かした木工業、石材業などの製造業、夏秋トマト、米作、シクラメンなどの農業、飛騨牛などの畜産業や有数の木材ブランドである東濃ヒノキの林業が営まれています。
- 全国的に有名な馬籠宿をはじめ、クアリゾート湯舟沢、恵那峡、根ノ上高原、付知峡、ローマン渓谷などの多くの観光スポットに恵まれています。
- 強い意志と真っ直ぐな心を持って励む勤勉彊直（きんべんきょうちよく）の精神を持つ人材に恵まれています。

多様性＝『豊かな自然と独自の歴史・文化が光るふるさと中津川』を創る

- 省資源や省エネルギーなどの市民の主体的な取り組みにより自然への負荷が抑えられ、下水道整備、里山保全や地域の特性を活かした景観づくりなどにより中津川らしい豊かな自然の保全や個性あるまち並み景観の創造が図られた、**豊かな自然ときれいなまち**

わたしたちの心やからだを包み育んでくれる美しく豊かな自然環境は、わたしたち一人ひとりが守り続けていかなくてはならない貴重な財産です。

- 日本百名山に数えられる恵那山をはじめ小秀山、奥三界岳、笠置山などの山々がそびえ、
- そこに源を発する付知川や中津川などの清らかで豊かな水量を持つ川が木曾川へと流れ込み、
- 市域のいたる所に四季ごとに表情を変える豊かな森や田園風景が広がっています。

- 歴史を踏まえた伝統文化が情報発信され、次世代へ伝承されるとともに、国際交流や広域的な交流による多様な文化とのふれあいのある、キラリと光る歴史・文化のまち

香り高い文化は、それぞれの地域が守り育ててきたもので、市民の誇りにつながる貴重な財産です。

- 東山道、中山道や飛騨街道などの街道文化により栄え、島崎藤村、前田青邨、熊谷守一などを輩出し、東山魁夷なども当市ゆかりの文化人となっています。
- 地歌舞伎や恵那文楽など多くの伝統芸能が盛んです。

このように、すべての市民が、自らの個性を余すことなく発揮し、喜びを享受し、いきがいと誇りを持って暮らし続けることができる

「豊かな自然と独自の歴史・文化が光る、

いきいきとしたふるさと中津川」

をめざします。

豊かな自然と独自の歴史・文化が光る いきいきとしたふるさと 中津川

多 様 性

のなかの

統 一

多様な個性をお互いに尊重する

統一的に互いに力を合わせる

豊かな自然と独自の歴史・文化が光る
ふるさと中津川

4 豊かな自然とき
れいな中津川を
つくります。

5 キラリと光る歴
史・文化の中津川
をつくります。

いきいきとしたふるさと中津川

**まちづくりの目標
(将来都市像)**

1 安心できる温か
い福祉のまちをつ
くります。

2 安全で便利な暮
らしをつくります。

3 産業を活発に
し、働く場を充実し
ます。

6 たくましく
生きる人づくり

7 互いに助け合う
コミュニティづくり

8 市民が主役の
市役所づくり

まちづくりを支える‘ちから’

9 社会基盤の整備